

陳 情 文 書 表

| | |
|--|---|
| 平 2 7 陳 情 第 8 号 | 平成 2 7 年 9 月 1 1 日 受 理 |
| 件 名 | 秦野市で中学校完全給食実施を求める陳情 |
| 陳 情 者 | 秦野市栄町 8 - 2 秦野市で中学校給食の実現を目指す会 代表 古尾谷 一宏 |
| 陳 情 の 要 旨 | |
| <p>平成 2 5 年度において、全国における公立中学校の完全給食実施率は 8 6 . 0 % となっていますが、神奈川県は全国で最も低い 2 5 . 0 % となっています。県内では川崎市が平成 2 8 年度中の完全給食実施を決定し、鎌倉市などでも実施に向けた検討が進められています。</p> <p>持参するお弁当には、親の愛情がこもっていることは事実です。しかし、各家庭での経済格差は大きくなっており、厚生労働省の「平成 2 5 年国民生活基礎調査」によると、子供の貧困率は 1 6 . 3 %、一人親世帯に限っては 5 0 % 以上となっています。平成 2 6 年 7 月に秦野市が実施した「中学校の昼食に関するアンケート調査」では、手作り弁当を持参できない日があると答えた生徒の割合は、8 . 1 % という結果が出ています。</p> <p>また、働く女性が増加していることもあり、すべての親が安心して安全な、栄養バランスのとれたお弁当を毎日つくり出すことができる状況ではないことも事実です。そのため、子供の朝食の欠食や偏食などにより、肥満や痩身の身体的影響だけでなく、精神的に落ち着かないといった心身の健康にも影響が出ています。</p> <p>憲法の理念や児童の権利に関する条約に照らしても、家庭環境によって子供が適切な食事がとれない状況や、そのことにより劣等感を抱かせるような状況はなくしていくべきです。中学校において完全給食が実施されれば、そのような状況は改善され、学校給食法などで求められている食育の推進とも重なり、より落ち着いて勉学に取り組めるものと考えます。</p> <p>さらに、市内でつくられた農作物を使用した給食を提供することで、輸送などで生じる環境負荷の低減、新鮮な食材を口にできることなど、理想的な地産地消の実現を図ることができると思います。</p> <p>つきましては、秦野の子供たちの健康な心身の発達をより促せるよう、次の事項について陳情します。</p> | |

陳情事項

次に掲げる事項に配慮した中学校完全給食を実施すること。

- 1 安心して安全な給食をつくるために必要な栄養士及び調理師を配置し、栄養バランスのとれた食事を提供すること。また、アレルギー対策の充実を図ること。
- 2 給食の食材については、市内でつくられた農作物を積極的に活用し、食材の安全性のチェックを厳重に行う仕組みを作ること。